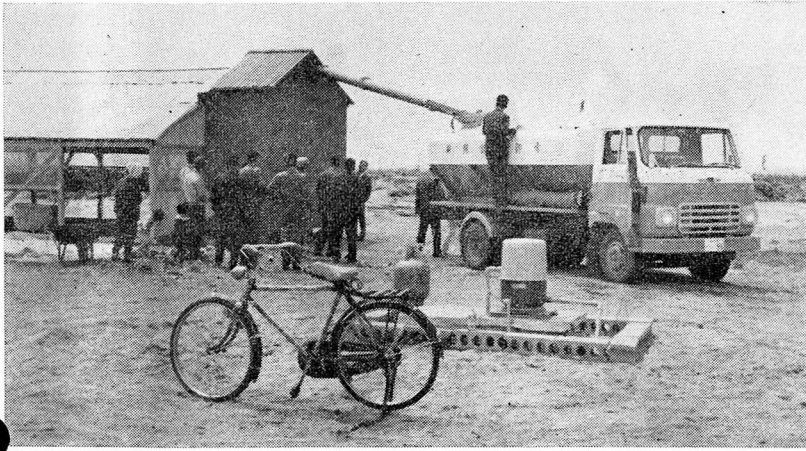


# 飼料バルク車登場



六、七年前渡米視察者の話を聞くと、アメリカでは日本みだいなチャチな養鶏や畜産をやっていない。一戸の養鶏家は何千羽という大羽数飼育をやっていて、正に製卵工場である。従って飼料も袋になんか入れないで、電話一本で飼料会社よりタンク車でサツと持って来て飼料タンクに入れていくまことに能率的な合理的なものである、と驚歎の言葉を以て報告をされたものであります。が、愈々我が社も飼料バルク車を使用する運びとなりました。

飼料バルク車を使用するにあたっては、まずバルク車が遊ぶことなく連日仕事に就く事が必須条件となります。このためには飼料工場或いは配送センターの周辺に大規模養鶏場が群集してしかも受け入れ態勢すなわち飼料タンクの設置など必要な準備が整わなければなりません。と同時に北海道の場合は道路事情が大きな関門となります。ことに冬季の輸送を確保出来る見通しがなければなりません。これらの諸問題を一つ一つ検討し、飼料部では五月より北海道に於てバラ輸送の実施に踏み切ることにいたしました。

新しく導入されたバルク車は日野自動車三・五ト積みレンジャートラックでありますが、荷台は特殊加工が施されており、三・五トの荷台は一ト・五ト一トの三タンクに仕切られて、荷おろしの面でも好都合となっています。飼料の排出にはタンク下方にエクスペラーが装置されておりこの通路を通して飼料は車体後上方のパイプへ送り出され、パイプを移動させることにより自由な位置へ動力で正確に排出することが出来ます。また都合によっては、大雛飼料、成鶏用マッシュ、肥育用飼料など目的の違った飼料を区別して積載することも可能であります。

このバルク車の登場により大羽数飼育の養鶏家にとってはいちいち飼料袋を開く手間が省けそれ丈でも能率的ですが飼料を自家の飼料槽まで配達を受けられること、常に新鮮な飼料が得られること、更に価格面でも割安になることなど色々の利点もたらされます。

今後は道路網の整備、冬期間の路線確保と相俟って、更に乳配、豚配にも広く活用されるのが期待されます。

それと同時に北海道においても、飼料工場と酪農家、養鶏家ますます密着して、近代的な企業体の姿をかもし出して行くことでありましよう。

## 訂正事項

五月号十三頁十六行目の堆肥は三ト以上、同上第七表の莖葉数の欄cmは本に訂正いたします。

節成種を用い主として親蔓の収穫を目標とする場合は子蔓は短いうちに一葉を残しその先端葉二枚を残して摘芯します。しかし親蔓に飛び節が多く着順数の少ない株があった時は適当な個所で親蔓を摘芯し子蔓を親蔓にかえて仕立てるように致します。

## 9 保温

九月中旬以降になりますと気温が次第に低下して、ビニールハウス内も夜間は相当冷込みますからハウス内に針金を張りビニールまたは岩倉ハイシート等を用いカーテン式で夜間の最低気温を摂氏一四度以上保つように工夫しましょう。十月上旬以降になりますと夜間の冷込みも増してきますがハウスの外側から弧や筵を覆うことが困難な場合は、ハウス内に針金を張りその上に弧を覆うなど、種々工夫して霜害を防がなければなりません。更に温度が下り過ぎて致し方のない時は、蔓をはわせて、トンネルを作りその上に弧かけすると収穫を数日延長させることが出来ます。

## 10 収穫

播種期が高温時ですので播種後五〇〜六〇日位で初収穫が出来ますが、初収穫は下節位の顆で形もよくないのが普通ですから小さいうちに収穫し、蔓の伸長をはかるように心掛けることが大切であります。なお収穫する場合は草勢によって収穫の大きさに手加減を加えなければなりません。変形果は幼果のうちに、また開花位置が先端近くになり草勢の弱った場合は思い切って若取りすることが大切であります。

(北海道学芸大学旭川分校 教授)